

連文

R E N B U N

の
Vol. 99
2015.8



久留米市民会館閉館

平成27年度連文定期総会

【口誌】報告 report

第62回 けしけし祭

第13回 ジュニア青木繁展

第51回 久留米短歌大会

第49回 仲縄忌俳句大会

第61回 久留米茶道連合会大茶会

久留米市民会館閉館

— 連文「市民会館さよなら公演」開催へ

1969年に開館した久留米市民会館は、半世紀の時を経てその役割を来年オープンする『久留米シテイプラザ』に引き継ぎ閉館します。

久留米市民会館は地方文化の発展の拠点としてバレエ、日本舞踊、演劇発表、高校演劇の発表会、地元アマチュアバンドのコンサート、民謡、カラオケなど地元で活動する人々や団体の活動の場、発表の場として親しまれ、大事にされてきました。また、興行として多くの歌謡曲、ジャズ、ポップス、フォークソングの歌手や演奏家の来演。能、狂言上演など地域の人々の文化鑑賞の大きな拠点となってきました。

連合文化会でも2005年に連文創立55周年記念事業として、ユネスコ無形

文化遺産に指定された文楽を招き、公演をして大変好評を得ました。

久留米連合文化会は久留米市民会館（指定管理者㈱西日本企画サービス）と共同事業としてさよなら公演を開催することにになりました。

その事業目的は、市民会館の閉館に当たり、久留米で芸術文化活動を行って地方文化の発展に寄与することを目的とした連文会員に、40数年に亘りその発表の場として利用した施設で、最後の公演を行う事で市民の方々と共に市民会館での思い出を作って戴き、活動の拠点が市民会館から久留米シテイプラザに移行するための節目の公演とし、更なる文化活動の振興や久留米シテイプラザの利用促進にも繋げて行くためです。

この事について6月29日に第一回実行委員会を開催しました。各部より選ばれた実行委員20名が参加し、催し物について討議しました。

開催日時は、2018年3月8日(火)～13日(日)です。

・3月8日から13日

・美術部門（小ホールと大ホールホワイエ）

・3月12日と13日

・舞台芸術部門（大ホール）

・華道部門（小ホールと大ホールホワイエ）

・茶道部門（主催者準備室）

これから各部門で各団体演目及び出演者並びに出展作品の決定を行い、開催チラシの制作など準備を進めていきます。

（同実行委員会・権藤元二郎）



開館当時（久留米市民会館パンフレットより：昭和44年発行）（上・中） 文楽公演（下）

平成27年度

定期総会を終えて

会長 木村清吾

27年度の連文総会が5月30日ホテルマリタール創世で開催されました。

洋楽部の宮田玲子さんがショパン作曲「革命」をオープニングセレモニーでピアノ演奏されました。運営方針の「子どもの久留米地域における芸術文化活動を支援する」に基づいて洋楽部では10月に荘島小学校訪問演奏会を計画しています。各部・各部門ですでに子どもの文化活動を支援しているところもありますが、この支援活動を連文で組織的にかつダイナミックに出前講座や久留米シテイプラザでのジュニア講座として展開していきたいと思っています。

なお、今回の規約改正では全ての役員の任期を一律に2年とし、但し会長、副会長、正副代表理事の在任期間は従前どおりになっています。

来年市民会館が閉館になるので市民会館と共催で来年3月に「さよなら公演」を開催します。ジュニア青木繁展はさよなら公演の中で市民会館小ホールを使って絵画・書道同時展示を行います。会員の皆様全ての議案を可決いただき有難うございました。

久留米の文化的上昇に貢献された方、永年連文会員であられた方大変ありがとうございました。また新しく連文会員になられた53名の方、共に久留米の文化の発展のために頑張りましょう。

久留米にもこんな美術館がほしい

工芸部 秋山 るみ子

5月下旬、工芸部とデザイン部の会員六名で、広島的美術館を巡る一泊二日の旅に出ました。

広島県立美術館、広島市現代美術館、泉美術館、安芸高田市立八千代の丘美術館とまわり、今回は主目的であった八千代の丘美術館についてレポートします。

小高い丘の上に建つ八千代の丘美術館は『広島のアート文化を生かして育てる拠

点づくり』を目的として平成13年に開館しました。

中庭を囲むように15棟の展示棟が建ち並び、1棟に1人の作家が個展形式で1年間作品を展示し、3回の展示替えがあるという全国でも珍しい美術館です。しかし、展示できるのは県内在住の作家の中から作家選定審査会によって選考された作家だけです。

手詰り

会創設時、創始者たちはそれぞれに若く、自由奔放な雰囲気の中で意見交換が行われ、礎を築いていったのであろう。まさに若さゆえのしなやかさと強かさ

に満ち溢れていたのだから。会員平均年齢67歳となり、沈滞、爛熟し、会員減少にも歯止めがかからない会を再生させたいという思いは各々に共通のものであった。しかし具体的な手立てということになると、各部それぞれの事情等に阻まれ困難なことだった。

そこで「招待の記」を読み直したのである。（「招待の記」抜粋）

「会が今もつともおそれているのは、当地方の文化人としての触覚、意志、熱情等を有する人々に対して、漏れなくしかも充分に礼をつくして、入会の招待を行つたであろうかということである。」

以来数十年にわたり招待は継続され、会員数六百人を越す会に成長し、今日に至るのである。

破壊と創造

反逆する側と反逆される側は常に背中合わせにあり、そうすることによって新しい源流が生まれる。完成形を見

た後に残っているのは破



自由と物言ひの空虚

小説部 隈恭徳

壊と創造なのかもしれない。それを成し遂げるのは古い船を動かしてきた水夫ではなく、今まさに新しい情熱漲る水夫の出現が待たれるのである。しかし新しい情熱を求めてやまない世代に目を移してみると、笛吹けど踊らず動かざること山の如し、大山鳴動することなくねずみ一匹自爆する事もなく、要は和を重んじる余りはみ出ること

そして、入館作家による講演や美術講座、ワークショップ、安芸高田市内の小・中学校への出張授業等があります。それ



八千代の丘美術館

を恐れ、穏便にということなのだろう。

世代は常に一対一の関係であり、それによってのみひとつの世界を完遂する。そのことを怠ると、半分は古い、あとの半分は未熟のまま放置されるといった奇形な現象を見せつけることになる。過去を振り返り、そして次の事業をど

うするかという考察がなければ、何の変化もなく、そのこと自体が机上の空論と化してしまう。そうしないために何をなすべきなのか、ここで立ち戻ることがすなわち「内に強烈な批判を持ち、常に自主的で青年性を持つ」ということである。

何処へ

会は何を望んでいるのだろうか。誰が

以外にもジャズやクラシックコンサートなど、音楽と芸術のコラボレートした空間づくりや、市民のためのギャラリイもあります。しかも市民は無料で使用できる地域密着の芸術文化を育てる拠点としての美術館です。

石橋美術館が、今後久留米市の運営となり、どんな美術館になるのか期待と不安が入り混じっています。

是非地元のアート文化を育てる拠点とすべく私たちも大いに協力しましょう。

変化を望んでいるのだろうか、素朴な疑問がわいてくる。変化などと戯言を言っているのは限られた人でしかなく、誰も変化を望まず、今のままで、和気藹々と談笑し刹那を享受する、そのどこが否定されるといふのだろうか。若かったころ、すべてを否定し敗北感にさいなまれながら刹那を謳歌したのと一緒ではないのだろうか。

どこを見渡してもマンネリズムに溢れかえっている。祭事はあきもせずおなじことを事を繰り返し、人々は歓声を上げる。「大いなるマンネリ」を目指してどこがいけないのだろうか。

久留米文化発展のためにという号令の下に、種種雑他なるものを乗せた箱舟はどこに向かおうとしているのだろうか。

第62回 けしけし祭

平成27年3月22日(日)11時、青木繁歌碑の前で、遺族、久留米市長、関係者が歌碑にカッポ酒を注ぎ、献花(華道部)、献茶(茶道部)、献書(書道部)、献句(俳句部)、献句(川柳部)、献歌(短歌部)、山本小学校児童の合唱で霊を慰める碑前祭が行われました。

「献句」繁の碑つつみ故山の木の芽風

谷川 章子

花の山たどりて惚ぶ繁の忌

大日方 明美

春の山ふるさと愛す繁の碑

中島 千佳

「献句」海の幸筑後の野辺に捨ててゆく

林田 峰人

運命の足音がする「海の幸」

松永 千秋

「献歌」君居ます山頂の風やはらかに

筑後平野に春訪れぬ

田代 直美

11時50分、寄るべなき流転のうちに、二十数年の生涯も技能も、光輝なく水の泡と消え、この世の怨恨と憤懣と呪詛とを捨て、静かに永遠の眠りについた青木繁が筑紫平野を眺めた頂から、碑前祭に参加した人たちが降りてくる。着飾った着物より草履を履いた白足袋が陽に映える。



輪切りのドラム缶の中で焼いていた丸太が消し炭になり、節を抜き先端をそぎ落とした二尺足らずの竹筒を火の中に突き立て、その中で温められた日本酒が甘い香りを振りまき始めると、緑色だった竹が黒く焦げ炎を上げる。

「よか爛のついとるばい」地元山本町の助っ人に促され、ブリキのバケツの中に無造作に放り込まれた竹筒を運んでいく。待ちわびた人たちがカッポ酒に群がり、竹のぐい飲みに酒を注ぎ思い思いに昼食を取る。談笑する人たちの顔が赤くなり笑い声が飛び交う。

顔を赤らめた老婦人が残ったカッポ酒をバケツから抜き取り、いたずらっぽく笑みを浮かべ「留守番している主人にお土産」と舌を出す。

こうして「櫛多き国」のけしけし祭りは何事もなく終わったのでした。

助っ人見聞録(小説部・隈恭徳)

第13回 ジュニア青木繁展



小・中・高校生を対象にした公募展で、今回は絵画の部に2454点、書道の部に2299点

の応募があり昨年より増えました。絵画の部の351点(入選入賞)を2月4日(水)8日(日)、書道の948点(入選入賞)を10日(火)14日(土)、久留米市庁舎2階のホワイエ・アートスペースにて展示しました。

表彰式は2月8日(日)、市庁舎2階のくろみホールで行いました。

大賞 書道の部

柳城中3年 河村 凜さん
文字の構成が良く、自信あふれる流麗な筆の運びで、堂々とした風格にあふれた作品になった。(書道部長・宮崎悠雲)

▲大賞 書道の部 河村凜さんの作品



大賞 絵画の部

莊島小学校5年 森山 数爽さん
賞創設以来、版画作品で初の大賞に輝いた。富士山を中心に配置したシンブルな構図で単調になりやすいが、色を重ねていく手法で深みのある魅力的な作品になった。(洋画部長・宇美拓哉)



▲大賞 絵画の部 森山数爽さんの作品

青木繁旧居 華道展

3月17日(火)～22日(日)、青木繁旧居を会場にして草月流万年青会中野松芳社中で「鉄の器に活ける」をテーマに作品を発表しました。最終日にはけしけし祭に参加されました皆様にも多数ご来場頂き、にぎやかな華道展になりました。

(華道部・中野松芳)



青木繁旧居 呈茶

7月12日(日)、青木繁旧居にて開催しました。(江戸千家久留米不白会)

今年で早13年目を迎える催し。今回は水点での趣向で、一時の涼を感じる夏ならではの一服を差し上げ、お客様には気軽に楽しんでいただきました。

(茶道部 熊本宗節)



第61回 連文茶道部大茶会

4月19日(日)、恒例の大茶会を少林寺で開催致しました。何故か今年も雨模様でしたが、雨に濡れたお庭の若葉の緑にほっとした思いでお茶を楽しんでいただけた事と思います。一席大日本茶道学会、二席煎茶の日本礼道小笠原流、三席裏千家、受付江戸千家と4流派で担当しました。雨の中でも足を運んで頂き500名ほどのお客様でした。

(茶道部・北島宗美)



第9回 連文工芸部会員作品展



6月2日(火)～7日(日)、えーるピア久留米市民ギャラリーにて、会員24名の染・陶器・人形の作品展をしました。

会期中約400名の来場者があり、さまざまな批評や感想をいただき感謝しています。これらは次回開催にいかしたいと思います。(工芸部・高木重太)

水墨画部会展

5月11日(火)～26日(火)、大分県竹田市久住高原荘にて水墨画部会展を開催しました。

これに併せて5月17日(日)に久住高原へ写生旅行に出かけました。当日は天気も良く、花公園付近でそれぞれ写生しました。創作意欲を掻き立てられる、有意義な楽しい日帰り旅行でした。

(水墨画部・松田邦久)



池坊久留米支部90周年記念花展

副会長山下寿京をはじめ5名の「テーマ」で「新たな出発 花 永遠に」をテーマに池坊久留米支部創立90周年記念花展を4月25日(土)～26日(日)、ホテルニユープラザにて開催しました。

古典立花、伝承の生花など伝統の花から現代の立花新風体、生花新風体、自由花など総数115瓶、この中には石橋記念くるめっこ館の生け花教室の子どもたちの作品も花を添えてくれました。作品にも力がこもっていて、来場者1300名(2日間)を超え華やかな花展となりました。

(華道部・甲斐美代子)



第49回 仲縄忌俳句大会

6月27日(土)、今年も雨が降る中、緑の美しい遍照院にて高山彦九郎先生二百二十三回忌の法要が行われ、その後、日吉神社の社務所に場所を移し、仲縄忌俳句大会を開催いたしました。

選者3名の特選句(◎)佳作句は次の通りです。

小川順子選

◎語り継ぐ維新の偉業以白の忌

田川ひとみ

梅雨空に清しく志士の忌を修す

野口桂子

万緑や時代先覚者の忌日

吉田いずみ

谷川章子選

◎さみだれの音高まりて墓前祭

大日方明美

仲縄忌参加と決めて明易し

和合久美子

以白忌へ植田の村を急げけり

利光千代美

黒田充女選

◎さみだれの音高まりて墓前祭

大日方明美

一院の文字摺草に置く忌日

矢野愛子

あめんぼの水の輪小雨の水の輪かな

大島シゲ子

(俳句部・黒田充女)

第51回 久留米短歌大会

5月24日(日)、石橋文化会館で開催。「歌と評論」の藤吉宏子氏に『短歌の力』の演題で講演されました。

398首の投稿の中から選ばれた特選歌は次のとおりです。

藤吉宏子選

◎久留米市長賞

長の子が嬉々と描きぬしその雄姿 戦艦武蔵 海底の惨

◎久留米市議会議長賞

石人の塚にさぶらふ山桜ふる世語るか 春の風花

◎久留米市教育委員会賞

指になじむ大き算盤五つ玉音ひびかせ て申告書書く

◎久留米連合文化会賞

ビルマより還らぬ兄を胸に秘め六十年 待ち母も逝きたり

◎西日本新聞社賞

添い寝する園児の口もと微笑めばそつ とその夢覗いてみたり

◎西日本新聞社賞

両足ふみ入れてみる

◎西日本新聞社賞

逝きし子の履き古したる皮の靴そつと

◎西日本新聞社賞

両足ふみ入れてみる

◎西日本新聞社賞

逝きし子の履き古したる皮の靴そつと

◎西日本新聞社賞

両足ふみ入れてみる

◎西日本新聞社賞

両足ふみ入れてみる

◎西日本新聞社賞

両足ふみ入れてみる

映画演劇部の活動

【くるめ市民劇団ほとめき倶楽部】

本公演『ピアノ・ピアノ』

演出・松井直一と演技指導・釜堀

茂。3月21日(土)・22日(日)、久留米市民

会館大ホールで開催しました。



【舞台アート工房・劇列車】

『人形劇であそぼ!』

作と演出・釜堀茂。5月30日(土)・31

日(日)、朝倉市秋月ろまんの道で開催し

ました。

【劇団ゼロ公演】

『水平線の歩き方』

演出・松井直一。6月7日(土)、文化

センター共同ホールで開催しました。

(映画演劇部・権藤元二郎)

第17回上水道フェア 呈茶

6月7日(日)午前10時から百年公園において久留米企業局水道部主催の筑後川のめぐみと水道水の安全性等をテーマにしたイベントが行われました。連文茶道部(日本礼道小笠原流)は呈茶で参加致しました。家族連れの方などが次々とみえ、お茶だけお出しするという場面にもなりましたが、どのお客様にもお茶がとておいしいと喜んでいただきました。筑後川のめぐみの水に感謝する一日でございました。(茶道部・結城翠泉)

裏千家淡交会久留米支部 第61回助け合い茶会

平成26年12月7日(日)、恒例の歳末助け合いの茶会を「くるめりあ六ッ門」にて開催いたしました。事務所の殺風景な部屋を一席は、畳をいれて炉の点前で、二席はお家元好みの和親棚で庭造りをして、少しでも茶の雰囲気を感じて頂けるように頑張りました。お客様も楽しんで下さった事と思います。500名ほどの参加者でした。(茶道部・北島宗美)

連文コンサート「音楽の贈り物」

2月1日(月)、えーるピア久留米 視聴覚ホールにて開催。この演奏会では、前半は新人会員の演奏を、後半は久留米児童合唱団を交え、クラシックの名曲の数々を披露し、多彩な演奏会となりました。

(洋楽部・椎山克己)

2014年 筑後・詩の集い

詩人・野田寿子を読む

平成26年11月30日(日)、久留米市立中央図書館視聴覚ホールで福岡県詩人会との同道で開催、参加者は55名でした。

野田さんは1927年、佐賀県鳥栖市に生まれ、若い頃は短歌を発表していたが、1953年に詩人丸山豊に勧められて、詩誌「母音」に参加。詩作に転向後は数多くの詩集を出版、福岡県詩人賞、丸山豊記念現代詩賞、福岡県文学賞等を受賞。日本を代表する詩人ですが、2012年12月13日に逝去されています。

今年は、野田さんに関係が深い方々に講演及び、詩の朗読をお願いしました。

第一部は「野田寿子先生との出会いと別れ」と題して熊谷紀代さんによる講演。彼女は高校入学時に、教師である野田さんと出会い、晩年に至るまで親交を重ねられていて、最後に立ち会われた人。会場は野田さんの人間性に触れられて、終始暖かい空気に包まれました。

第二部は「野田寿子の詩をめぐって」と題して詩人草倉哲夫氏にお願いした。氏は、野田さんと同じ会に所属して、その中心的存在であるが、2012年に野田寿子の評伝を上梓。氏は、野田さんの作品について、「平和、戦争、人権、社会、家庭、と多岐に亘っているが、根底には命という存在がある」ということをおっしゃっていました。(詩部・緒方和美)

ASSA創立40周年記念
日韓文化交流2015
久留米市民会館閉館「おもひで公演」

(15第17回発表会)

アサバレエアカデミア公演

パストラルコミックバレエ

「リゼット」全幕他バレエコンサート

曲：P・L・ヘルテル
指揮：磯部省吾 演奏：プリズムグラウンアンサンブル

ASSAバレエアカデミアはお蔭様で創立40周年を迎え、この度は、今まで幾度となく使わせていただいた市民会館で7月12日(日)に記念公演を行いました。今は谷桃子バレエ団で活躍する久留米市芸術奨励賞受賞の齊藤耀と芸術監督でプリンシパルの齊藤拓を中心に、磯部省吾指揮のハイブリッドオーケストラ「プリズムグラウンアンサンブル」の演奏によるバレエ「リゼット」全3幕とバレエコンサート(小品集)を、沈鉉淑釜山バレエアカデミーとASSAバレエアカデミア、バレエボックス傘下の舞踊家と研究生たちによりくりひろげられ、盛大な拍手の中で無事に終了致しました。(洋舞部・齊藤耀)



「◎芸術散策◎行事のお知らせ」information

邪馬台国全国大会 in福岡

久留米から邪馬台国がみえる

11月に全国シンポ

11月29日(日)

石橋文化センター共同ホール

全国邪馬台国連絡協議会による「邪馬台国全国大会 in福岡」が11月29日(日)、久留米市野中町の石橋文化センター共同ホールで開催される。県民文化祭のひとつで、久留米連合文化会も後援。「卑弥呼はどこにいたか、邪馬台国はどこにあったか」は、いまだに謎のままだが、この会では筑後川流域に着目し、サブタイトルは「久留米から邪馬台国がみえる」。全国から歴史ファンが集合し、歴史研究者の講演を聴きながら、古代史への旅を楽しみます。

邪馬台国はどこか。長い論争が続く

久留米吟詠道連盟

第56回吟詠詩舞道大会

11月1日(日) 9時30分

文化センター共同ホール

連盟所属8会派恒例の年一回の秋の発表会で、会員相互の親睦と研鑽を兼ねた楽しい催しです。

会員以外の方の来聴も歓迎します。(吟詠部・福光季端)

ており、近年は畿内説に傾いているとい

われるが、九州説も根強い。第一回の全国大会は東京で開かれたが、第二回は地方でということになり、吉野ケ里遺跡、平塚川添遺跡なども発掘され、注目の筑後川流域に決まりました。

最終プログラムは近く決まるが、目玉は歴史学者によるリレー講演。佐賀の高島忠平氏の「吉野ケ里遺跡と邪馬台国」、甘木朝倉に着目の安本美典氏が九州説を展望、奈良の檀原考古学研究所の関川尚功氏も「考古学からみた大和説への疑問」を話される予定です。

当日は、全国から数百人の歴史ファンが参加予定で、懇親会や遺跡をめぐる筑後平野バスツアーもあり、地元久留米との交流も期待されています。

(学芸部・橋爪正道)

西原柳雨生誕150年記念講演会

10月4日(日) 13時30分

久留米市民会館第一会議室

古川柳研究家西原柳雨の生誕150年を記念して『柳雨さんの柳多留』の講演会を開催します。尚、講演終了後、三本松公園の句碑の前で碑前祭を行います。

(川柳部・堤日出緒)

平成27年 1月～7月初旬

文推協ニューイヤークンサート	1/11(日)・葎香園
連文役員新年会	1/17(土)・ホテルマリタール創世
松師古松崎睦生)と仲間たちによるたのしい書画展	1/28(水)～2/2(月)・久留米岩田屋新館4Fギャラリー
心象会展(水墨画)	1/28(水)～2/2(月)・一番街多目的ギャラリー
連文コンサート「音楽の贈り物」	2/1(日)・えーるピア久留米視聴覚ホール
第13回ジュニア青木繁展	2/4(水)～8(日)・久留米市役所2F 2/10(火)～14(土)・久留米市役所2F
混声合唱団くるめ市民コール創立10周年記念第8回演奏会	3/8(日)・石橋文化ホール
青木繁旧居華道展(草月流万年青会中野松芳社中)	3/17(火)～22(日)・青木繁旧居
茶を楽しむ会(江戸千家久留米不白会)	3/21(祝)・坂本繁二郎生家
くるめ市民劇団ほとめき倶楽部公演「ピアノピアノ」	3/21(祝)・22(日)・久留米市民会館大ホール
第62回けしけ祭	3/22(日)・かぶと山
合同歌集「久留米歌壇」第31集	4/1(火) 発行
第44回道優会勉強会	4/10(日)・久留米市民会館大ホール
第65回西日本華道連盟いけばな展	4/14(火)～19(日)・福岡三越ギャラリー
第61回連文茶道部大茶会	4/19(日)・少林寺
第66回西部水彩公募展	4/21(火)～26(日)・石橋美術館1Fギャラリー
佐川大羊 篆刻展	4/22(水)～26(日)・一番街多目的ギャラリー
華道家元池坊久留米支部創立90周年記念花展	4/25(土)・26(日)・ホテルニュープラザ
久留米文学第62号	5/1(金) 発行
久留米児童合唱団第44回定期演奏会	5/3(祝)・石橋文化ホール
連文水墨画部作品展	5/11(月)～25(月)・国民宿舎久住高原荘ロビー
第4回緑人会写真展	5/20(水)～24(日)・えーるピア久留米2Fギャラリー
第51回久留米短歌大会	5/24(日)・石橋文化会館小ホール
平成27年度連文定期総会・祝賀会	5/30(土)・ホテルマリタール創世
舞台アート工房劇団重宝の夜と入形劇場でんぐら山のふしぎ	5/30(土)・31(日)・朝倉市秋月ろまんの道
第9回連文工芸部会員展	6/2(火)～7(日)・えーるピア久留米市民ギャラリー
田中慧ふるさとの風景展	6/2(火)～7(日)・一番街多目的ギャラリー
上水道フェア呈茶(日本礼道小笠源流)	6/7(日)・久留米市百年公園
劇団ゼロ公演「水平線の歩き方」	6/7(日)・石橋文化センター共同ホール
第34回裏千家淡交会久留米支部学校茶道合同茶会	6/14(日)・くるめりあ六ツ門6階
第49回仲繩忌俳句大会	6/27(土)・遍照院
第4回青木繁記念大賞西日本美術展	7/4(土)～8/2(日)・石橋美術館1Fギャラリー
青木繁旧居呈茶(江戸千家久留米不白会)	7/12(日)・青木繁旧居
アサバレエアカデミア公演「リゼット」	7/12(日)・久留米市民会館大ホール
第46回裏千家淡交会久留米支部青年部納涼茶会	7/26(日)・くるめりあ六ツ門6階

平成27年 8月～12月

第44回水の祭典久留米まつりに参加(総合文化部)	8/4(月)・明治通りおまつり広場
アフリカの印象(中尾精后画業50周年油彩画回顧展)	8/6(木)～12(水)・石橋美術館1Fギャラリー
フジタバレエ研究所第18回研究生発表会	8/9(日)・久留米市民会館大ホール
第32回バレエリサイタル「コッペリア」	9/2(水)～7(月)・岩田屋久留米店
第35回連文会員華道展	9/12(土)・久留米市民会館小ホール
久留米ほとめき倶楽部中間発表	9/12(土)～13(日)・大濠公園日本庭園
大日本茶道学会福岡地区研修会	9/17(水)～21(日)・石橋美術館1Fギャラリー
創元会第35回福岡支部展	9/23(祝)・南部浄化センター
第19回下水道フェア呈茶(裏千家淡交会)	9/27(日)・日吉神社
裏千家淡交会久留米支部日吉神社観月茶会	9/27(日)・久留米市民会館大ホール
日舞勉強会(スベシヤルオリンピックスチャリティ)	10/4(日) 13時～・石橋文化センター共同ホール
第51回久留米三曲協会定期演奏会	10/4(日)・久留米市民会館第一会議室
西原柳雨生誕150周年記念講演会	10/7(水)～25(日)・石橋美術館1Fギャラリー
第64回久留米市総合美術展	10/7(水)～25(日)・石橋美術館1Fギャラリー
第45回連文会員美術展	10/14(水)～18(日)・えーるピア久留米市民ギャラリー
木村フォトセミナー写真展2015	10/15(木)・久留米市民会館小ホール
平成27年度おさらい会(二川会)	10/28(水)・荘島小学校
小学校訪問演奏会	11/1(日)・石橋文化センター共同ホール
久留米吟詠道連盟第56回吟剣詩舞道大会	11/1(日)・梅林寺
第69回久留米茶道連合会法要大茶会	11/3(祝)～8(日)・石橋美術館1Fギャラリー
第43回書作家展(連文書道部)	11/10(火)～15(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
第27回南祥会書作家展	11/10(火)～15(日)・大川市立清力美術館
連文デザイン部展	11/18(水)～23(祝)・石橋美術館1Fギャラリー
第67回西部示現会展	11/23(祝)・御井校区コミュニティセンター
第62回桃青忌俳句大会	11/29(日)・石橋文化センター共同ホール
邪馬台国全国大会 in福岡	11月予定
筑後詩の集い	12/6(日)・くるめりあ六ツ門6階
裏千家淡交会久留米支部第62回歳末助け合い茶会	通年・青木繁旧居
青木繁旧居生け花展示(草月流万年青会中野松芳社中)	通年・JR久留米駅構内
JR久留米駅生け花展示(草月流万年青会中野松芳社中)	通年・JR久留米駅構内

訃報(平成27年1月～7月) 謹んでご冥福をお祈り致します。

中村 艶仙さん (茶道部)	平成27年4月2日
石井 紫都代さん(華道部)	平成27年4月10日
小川 草珠さん (華道部)	平成27年6月12日